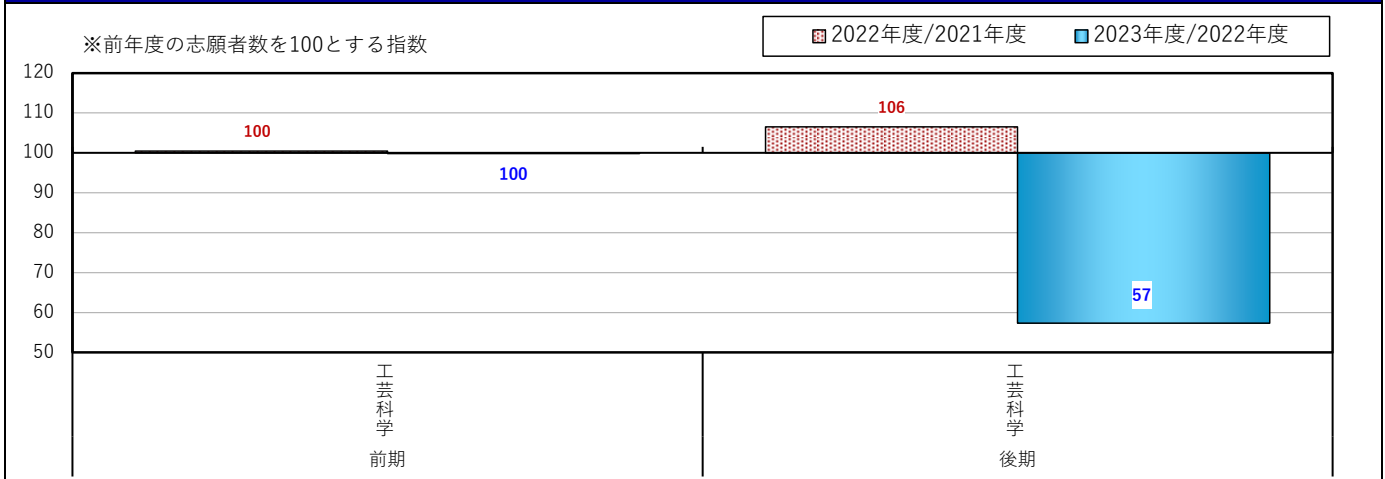


京都工芸繊維大：前期は前年度並、後期は募集人員減少により倍率はアップ 前期：-2 人 後期：-685 人



主な入試変更点	<p>選抜方法：工芸科学(デザイン科学/デザイン・建築学)…後期日程廃止</p> <p>募集人員変更：工芸科学(応用生物/応用生物学)…<前>30人→22人、<後>14人→10人 (物質・材料科学/応用化学)…<前>105人→95人、<後>42人→24人 (設計工/電子システム工学)…<後>20人→10人 (設計工/情報工学)…<前>34人→30人、<後>18人→15人 (設計工/機械工学)…<前>50人→48人、<後>27人→15人 (デザイン科学/デザイン・建築学)…<後>91人→105人</p> <p>共通テスト：工芸科学(応用生物/応用生物学)…<前><国<100>+歴公<100>+数2<100>+理2<100>+外<100>=総点<500> →国<75>+歴公<25>+数2<100>+理2<100>+外<100>=総点<400> (設計工/電子システム工学)…<後>国<100>+歴公<50>+数2<100>+理2<100>+外<200>=総点<550> →国<100>+歴公<50>+数2<100>+理2<250>+外<200>=総点<700></p> <p>個別試験：工芸科学(応用生物/応用生物学)<前>…数<200>+理2<300>+外<300>=総点<800> →数<200>+理2<400>+外<200>=総点<800> (応用生物/応用生物学)<後>…廃止 (物質・材料科学/応用化学)、(設計工/電子システム工学)、(設計工/電子システム工学)、 (設計工/情報工学)、(設計工/機械工学)<後>…数+理→数 ※理除外</p>
----------------	--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は2人(100)の微減で、3年連続で志願者数は1,150人前後が継続。後期は工芸科学(デザイン科学/デザイン・建築学)の募集停止と、募集人員の53%減少により、685人(57)の大幅減少。ただし、志願倍率は募集人員の減少のため10.1倍→12.4倍にアップ。

<前期日程>
 ○**工芸科学(100)**は、微減。課程別では、6課程中で増加が3課程、減少が3課程と均等に分かれた。増加の3課程のうち、(設計工/電子システム工学)(127)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(デザイン科学/デザイン・建築学)(117)は大幅増加で、募集人員増加率15%を上回る増加率だったので、志願倍率も3.2倍→3.3倍にアップ。一方で、減少の3課程は、(設計工/情報工学)(75)は大幅減少で、募集人員減少率12%を上回る減少率だったので、志願倍率も4.7倍→4.0倍にダウン、(物質・材料科学/応用化学)(86)は減少で、募集人員減少率10%を上回る減少率だったので、志願倍率も2.9倍→2.8倍にダウン。(応用生物/応用生物学)(99)は微減に留まり、募集人員減少率27%を下回る減少率だったので、逆に志願倍率は3.5倍→4.7倍にアップ、6課程中最も高倍率だった。

<後期日程>
 ○**工芸科学(57)**は、(デザイン科学/デザイン・建築学)の募集停止と他の課程の募集人員削減により大幅減少。しかし、学部全体では募集人員減少率53%を下回る減少率だったので、逆に志願倍率は10.1倍→12.4倍にアップ。募集を行う5課程は全て募集人員が減少し、(設計工/情報工学)(103)を除いて志願者数も減少。課程別では、募集を行う5課程すべてで募集人員が減少となるので、志願者指数ではなく志願倍率で変化を見ると、志願倍率がアップしたのは3課程、ダウンしたのは2課程だった。最も高倍率は、(設計工/機械工)の18.4倍で前年度比6.8ポイントアップだった。一方で、最も低倍率は、(応用生物/応用生物学)の4.1倍で前年度比3.8ポイントダウンだった。